

資料

センチクバエによる鼻ハエ症の1例

上村 清 荒川 良

富山医科薬科大学医学部病理学教室

(〒 930-01 富山市杉谷 2630)

(受領: 1985年7月20日)

A case report on nasal myiasis
due to the flesh fly,
Boettcherisca peregrina

Kiyoshi KAMIMURA and Ryo ARAKAWA

Laboratory of Parasitology, Department of
Pathology, Faculty of Medicine, Toyama
Medical and Pharmaceutical University,
2630 Sugitani, Toyama 930-01, JapanKey words: myiasis, nasal myiasis, flesh fly,
Boettcherisca peregrina.

鼻ハエ症は外国ではしばしばみられるが、日本国内からは知られていない(森川, 1958; 水野, 1959など)。著者らは今回富山市在住の28歳の脳死男子患者の鼻腔内より得られた5虫体がセンチクバエ *Boettcherisca peregrina* の3齢幼虫であることを確かめたので報告する。

症 例

患者: 内○論○, 28歳男子, 富山市四方江代町在住, 会社員。

初診: 1984年9月24日。

主訴: 頭痛, 吐気, 嘔吐, 胃痛。

既往歴および家族歴: 特記すべきものはない。

現病歴: 1982年5月右睾丸腫瘍にて昭和大学付属病院泌尿器科にて除手術施行。1982年9月富山医科薬科大学付属病院泌尿器科に転院し, 肺などに転移のため, シスプラチンによる化学療法にて入退院をくり返した。1984年7月25日強度の頭痛, 吐気のため受診し, 即日最上階の7階病室に11回目の入院をした。脳に転移し, 脳ヘルニアを起し, 脳圧亢進を生じる。7月28日呼吸停止があり, 7月29日意識混濁, 自発呼吸停止のため気管に挿管し, 強制換気を行ったが, 7月30日脳死

状態となる。8月1日鼻腔内にウジが寄生しているのを妻が発見し, 鼻腔洗浄にて1虫体を摘出除去した。8月2日夜に鼻腔より2虫体はいし出てきたため, 口腔内を洗浄し, 咽頭部から3虫体を鉗子にて摘出した。これら5匹の幼虫が当教室に持参され, 同定を依頼された。吸痰をたびたび行っていたが, 口腔内に傷口は見あたらなかった。患者は8月3日心不全にて死亡した。

検査成績: 血液: 赤血球 487×10^4 , 白血球 $11,700$, 血色素 14.5 g/dl , Ht 46.1% , 血小板 154×10^3 。血液化学: 正常。尿: タンパク (±), 糖 (-), 潜血 (卅), 沈渣: 赤血球 $10 \sim 15/\text{GF}$, 白血球 $0/\text{GF}$ 。球菌: (+)。CT scan: 右肺に 1 cm 大, 左肺に 1 cm 大と 3 cm 大の腫瘍, 肝に 4 cm 大と 1 cm 大の腫瘍, 脳に $2 \sim 3 \text{ cm}$ 大の腫瘍を認めた。

虫体所見

虫体はいずれも生きており, 体長 $15 \sim 16 \text{ mm}$, 乳白色円筒状で, 頭部に細まり, 後端は截断状で, 6対の肉質突起を有する。ニクバエの成熟幼虫と思われたので, 実験室内で餌を与えずに腰高シャーレにおがくずと共にに入れて飼育したところ, いずれも8月5日に蛹化した。蛹は長さ $10 \sim 11 \text{ mm}$, 幅 5 mm 大で, 8月13日朝から15時30分にかけてすべて羽化した(図1; 3♂♂, 2♀♀)。雄成虫の後脚脛節に長毛を欠き, 外部生殖器(図2)の内狭子は先端にあまり細ならず, 先端近くに小棘を有する。

これらの形態的特徴から, 本種はいずれもセンチクバエ *Boettcherisca peregrina* Robineau-Desvoidy と同定された。

考 察

センチクバエは日本全土にもっとも普通のニクバエで, 北海道からニューギニアにかけて広く分布しており, 人畜の糞便, 動物死体, ごみ溜, 汲取便所などに発生する(Kano *et al.*, 1967)。

幼虫期間は武衛ら(1978)によれば, 25°C で6日, 30°C で5日である。当院病室は 27°C 前後に調整されており, 摘出後餌を与えなかったため蛹化が遅れた可能性はあるが, 家族が最初発見した7月28日の2, 3日前に, 院内で意識混濁の患者の鼻部に1齢幼虫が産みつけられたものと推察される。

センチクバエによる外部ハエ症は, 外耳道寄生4例と耳下腺腫瘍寄生1例の5例が知られているのみで, 鼻腔からは本症が最初のものと思われる(森川, 1958; 八木沢ら, 1975; 可児ら, 1981など)。意識混濁に加え, 化学療法で抵抗力の低下した患者での特異なケースとは

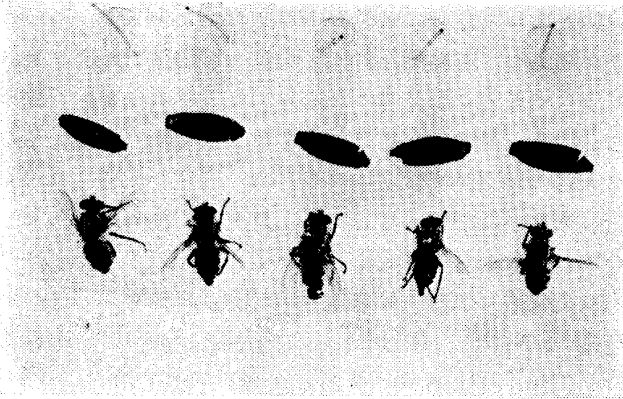


図 1 鼻腔より検出された幼虫から羽化したセンチニクバエ成虫と蛹殻



図 2 鼻腔寄生の幼虫より羽化したセンチニクバエの雄の外部生殖器

いえ、本来、衛生管理の行き届いた病院内で、入院患者にハエ症が発症したことは問題で、ごく普通に存在するハエといえども侵入を防止する対策が必要と思われる。

本資料を提供いただいた富山医科薬科大学泌尿器科の中田瑛浩助教授，里見定信医師，本種の同定を確認していただいた国立予防衛生研究所衛生昆虫部倉橋 弘主任研究官に深謝する。

引用文献

- 武衛和雄，朴 星湖，矢麦寿雄 (1978)：ニクバエ 3種の生態，とくに発育と生殖能力に及ぼす温度の影響。衛生動物，**29**：125-132。
- 可児淳朗，中村 治，大野晴美，長瀬啓三，戸谷 徹造，森下哲夫，小山恵三，岩田重信 (1981)：センチニクバエによる外部蠅症について。衛生動物，**32**：23-28。
- Kano, R., G. Field and S. Shinonaga (1967)： *Fauna Japonica Sarcophagidae (Insecta: Diptera)*, 168 pp, 16 pls., Biogeographical Soc. Jpn.
- 水野英彦 (1959)：蠅症の研究。第1報。海外文献を主とした蠅症研究の文献的考察。お茶の水医誌，**7**：2592-2611。
- 森川達二 (1958)：蠅症に関する研究。第1報。日本における人体蠅症に関する文献の考察。お茶の水医誌，**6**：1451-1466。
- 八木沢幹夫，中村賢二，永井 洵 (1975)：センチニクバエによる耳蠅症の1例。耳喉，**47**：643-645。

Summary

Five mature larvae of a flesh fly were recorded from the nasal cavity of a 28-year-old man with terminal seminoma. These larvae, approximately 15-16 mm long, had been reared at room temperature. Subsequently, 3 male and 2 female flies emerged. The specimens were identified as *Boettcherisca peregrina* Robineau-Desvoidy from morphological characteristics. This is the first report on human nasal myiasis due to this species.